

IMAGINE ROTARY

2022-23年度 RI会長／ジェニファー・ジョーンズ
RI.D2590ガバナー／志村 雄治
横浜旭RC会長／安藤 公一

「想像してください、私たちがベストを尽くせる世界を。
私たちは毎朝目覚めるとき、その世界に変化をもたらせると知っています。」

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区二俣川1-37-3 NUTS1階／〒241-0821
TEL.045-465-6702／FAX.045-465-6712
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 二俣川相鉄ライフ 4Fコミュニティサロン
例会日 毎週水曜日／12時30分～1時30分



横浜市幼稚園協会へエコペーパー石鹸配布



ガールスカウトとクリーン作戦



鎌倉・江の島へ親睦旅行

2023年6月14日 第2509回例会 VOL.54 No.42

■司会 SAA 岡田 隆

■開会点鐘 会長 安藤 公一

■出席報告

会員数	18名	本日の出席数	13名
本日の出席率	72.22%	修正出席率	77.78%

■オンライン出席者 五十嵐

■本日の欠席者 宋、二宮、福村、中谷、佐藤（真）

■会長報告 安藤 公一

関東では6月8日、東北では6月11日に北海道を除く日本全国が梅雨入りとなりました。今年の梅雨はジメジメ・しとしとという所謂鬱々とおしい梅雨ではなく、降るときは土砂降り、晴れば、夏本番の暑さという所謂熱帯や亜熱帯地域の雨季のような時間当たりの雨量が多い天候となりそうです。先週末に沖縄に接近した台風3号は、その前の台風2号のような被害をもたらすことはなく過ぎ去りました。激しい気候の変化に身体が付いていけないせいなのかインフルエンザも一部で流行の兆しや、一部地域では再度新型コロナの感染拡大により学校閉鎖も出たとの報道がありました。心身の健康維持に油断は禁物、日々努力していきましょう。

4週間前に一年8ヶ月ぶりに日経平均株価が

昨日3万円の大台をつけた以降、全体的に続伸を見せ今日も3万3千円台をキープしています。昨日から始まったFRB（米国連邦準備制度理事会）の動向にも注目ですが、約1年間にわたり続いた利上げは、今回は見送りとなる公算が大きく世界の株式市場にはマイナスの影響は出ないものと予測されています。

スポーツでは、引き続きWBC優勝戦士達のメジャーリーグ・日本プロ野球での活躍が連日報道されています。大谷も昨日19号・20号と本塁打を連発し、ケガ人リスト入りしているジャッジを抜き今のところ第一位となっています。怪我無く元気に今後も活躍を続けてくれることを祈ります。

先週終わった全仏テニスでは日本人の活躍が目立ちました。男女混合ダブルスでは加藤未唯選手が女子ダブルスの失格を乗り越えて優勝、パラテニスでは17歳の小田凱人（ときと）選手が初優勝、上地結衣選手はシングルス準優勝、ダブルス優勝をそれぞれ飾りました。

7月20日からのサッカー女子ワールドカップが豪州・NZで共同開催されます。澤穂希主将の下、優勝したのが東日本大震災の僅か4か

月後の2011年7月でした。この優勝にどれだけの方々が勇気付けられたのでしょうか。地震・津波の被災地の方々にとっても大きな出来事だったと思います。今年も頑張っただけで欲しいと思っています。そして7月末には福岡で世界水泳、8月末からバスケットのワールドカップが沖縄で、9月8日からフランスでラグビーワールドカップが始まります。日本チームの活躍に大いに期待します。

◇地区関係・クラブ関係

- 1) ローターアクト学友会の総会が6月18日に開催されるとの案内がきました。
- 2) 地区より2023-24の青少年交換のホストファミリーバンク名簿掲載者募集の案内がきました。該当者がいなくても6月末日にはクラブとして地区に報告しなければなりません。
- 3) 次年度の「地区研修・協議会」動画視聴が4月10日から始まりました。各委員長の皆さんにおかれましては、活動計画作成の一助として是非ご覧になって頂きたいと思います。
- 4) 2023年6月24日14時から「旭区民スポーツ祭」が開催されるとの案内がきました。同時に協賛依頼もきましたので、例年通り協賛しておきます。
- 5) 当クラブとして平成17年の第一回以降参加を続けていた旭区チャリティーゴルフの終了の案内が参りました。会場となっていた戸塚CCが休業日の開場を「働き方改革」に則り取り止めたことが大きな要因と思います。
- 6) 「ハイライトよねやま」6月号が発行されましたので、回覧します。記事の中に博士号取得すると記念の奨学生の名前入り腕時計を授与されるとの記述がありました。当クラブがお世話している宋ルンクンさんも博士課程なので、博士号取得の暁にはクラブでお渡しできるようなので、今から楽しみです。
- 7) 株式会社日本防災研究センターの古本様からクラブ宛にメールを頂きました。同社のHP

を印刷しましたので、回覧しておきます。

■例会臨時変更のお知らせ

○横浜田園 RC 6月27日(火)

点鐘 18時 会場/とうふ屋うかい

■次年度増強委員会 五十嵐/代読 岡田

次年度の活動計画を製作するにあたり、組織表を拝見すると委員長以下委員は全員とありますので、全員で委員会をやるわけにもいかないので、どなたでも、増強に向けた施策のヒントをご教授願いたく、私宛にメールを1週間を目安に願います。私自身、今の時代感覚に遅れている感が否めませんのでよろしく願います。

■ニコニコBOX

安藤 公一/田川さん、本日の卓話宜しく願います。

田川 富男/一般卓話、群雄割拠の話をしてします。内容で群雄割拠がわかります。

岡田 隆/田川さん、本日の卓話楽しみにしています。よろしく願います。

内田 敏/田川さん本日の卓話よろしく願います。楽しみにしています。

北澤 正浩/田川さん、本日の卓話楽しみにしております。

■ぐんゆう-かっきよ【群雄割拠】 田川富男



今は昔、日本でも多くの名将が生まれてきた戦国時代、その名は現在でも広く轟かしています。特に名高い名将と言えながら織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の三人とその時代を生きてきた武将が今でも伝承されています。また、日本人なら誰でも知っている武将も多く存在し

ています。例えば石田三成・明智光秀・武田信玄・真田幸村・伊達政宗・上杉謙信など全国にも切り無く高名を上げています。このままに、日本の歴史を紐解くのも良いとは言えますが残念ながら、自分の薄い知識では博学の皆様に向けてのお話しが出来ない事は明白ですので今回も隣国の歴史を話したいと考えました。

偶然にも、今回の米山奨学生の宋さんも前回の林さんと会員の宋さんと中国の方々であり関係があるとも感じます。三国志の面白さを語るまえに「三国志とは何か？」と聞かれたとき、ひとことで説明するのは実はかなり難しいことです。あえて本当に、ひとことで言い表すとすれば、今から1800年ぐらい前の紀元200年代、中国大陸が三つの国に分かれて争っていたというものだ。それが魏（ぎ）・蜀（しよく）・呉（ご）という三国のことで、それらの国々について、まとめた歴史書のことを『三国志』です。その三国を創業したトップの人間が、魏（ぎ）の曹操（そうそう）、蜀（しよく）の劉備（りゅうび）、呉（ご）の孫権（そんけん）です。彼らがそれぞれに「皇帝」を名乗って「三国」が並び立った状態が、だいたい40年（西暦220年～263年）続きました。

ともあれ、これは中国の歴史としては初めて訪れた異様な時代だったのです。中国のトップといえば皇帝です。本来、皇帝は世界に一人しか存在してはいけないという概念があり。秦の始皇帝しかり、漢の劉邦しかりである。後世の隋・唐・宋・元・明・清でも皇帝は一人だけだ。ラストエンペラー、溥儀（ふぎ）が退位して清が滅びたのを見ても分かるように、皇帝とは唯一無二の存在だった。その皇帝が三人も現れたのだから、いかに異様であったか。逆に後世の人間から見れば、それこそが面白いということになる。それが魏（ぎ）・蜀（しよく）・呉（ご）という三国のことで。

「三国志って、三つの国の戦いでしょう」三

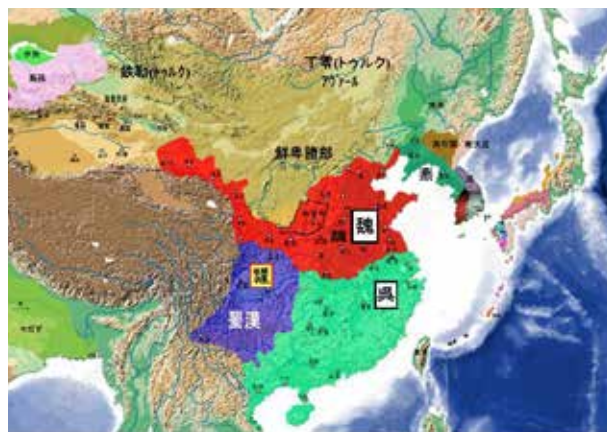
国志を知らない人に、そう聞かれたことがありました。「そうです」と答えるべきか「いや、そうじゃないんです」というか、ちょっと考えてしまったことがあります。後漢が滅んで魏・蜀・呉の三国があった時代。正史・小説にかかわらず、個性豊かな登場人物たちが多く、それぞれが魅力を持っている点であります。たとえば軍師の代名詞、諸葛亮（孔明）は「三日で十万本の矢を用意します」と公言し、本当に揃えてみせる場面がある。美しいヒゲを生やした武将、関羽（かんう）関羽は敵将の首をはねて戻ってきたとき、出陣前に出された酒がまだ温かかった、という逸話が知られています。彼は後世、横浜中華街などに「関帝」としてまつられています。それぞれ小説『三国志演義』の名エピソードだが、それと似たようなことが「正史」にも記されている。また「正史」でも呂布（りよふ）という名将が、遠くに突き立てた矛の先に矢を射当てるエピソードがあるなど。このように多くの人物がそれぞれに個性を発揮し、物語を形づくるのです。そこで、主だった人物について紹介させていただきます。

中国史や三国志のことが知らない方でも、名前だけでも認識されている三国志の有名人は、文句なしに諸葛亮（孔明）だと思います。ではなぜに彼は現在でも受け入れているのか、孔明は蜀（しよく）劉備（りゅうび）の軍師として名を上げ名声を博した人物です。劉備との出会いは、慣用句にある〈三顧の礼〉で礼を尽くして蜀の軍師となりました。それまでは蜀軍は100戦100負の始末でしたが諸葛孔明の采配により劣勢した軍が強い軍勢として建国する事が出来た。そして、天下三分の計を作り上げたのが孔明でした。その名は蜀（しよく）であり漢皇帝の劉一族の末裔に当たる劉備（りゅうび）です。実は三国志の中心人物は蜀（しよく）劉備（りゅうび）玄德であり漢皇帝の復興に向けて七転八倒の日々を送っていました。劉備（りゅうび）

には人望が有り多くの武将が集まっていました。中でも 関羽（かんう）張飛（ちょうひ）趙雲（ちょううん）諸葛亮などの力を借りて蜀皇帝を建国した。人望の片鱗として仁義を尊び、時に諸葛亮に話しをした。曹操の戦いにて負け、敗走する場面に於いて孔明が逃げるには重い物や足手纏いに成る物は捨てる様に話し《同走している人民（避難民）を捨てる話しをした》劉備は承諾しませんでした。劉備曰く「人民を捨てられない。国は人であり領土の大きさや有無ではない。人民が私を見捨てても私は人民を捨てられない」の一言で諸葛亮孔明は劉備（りゅうび）玄德の偉大さを感じ取りました。

まだまだ小国だった時期の蜀（しよく）劉備（りゅうび）が魏（ぎ）の曹操（そうそう）に追い詰められた時ですが孔明の機転にて窮地を切り抜けた。それは、もう一つの國 呉（ご）の孫権（そんけん）です。孔明はこう言いました「呉の孫権さん私は呉を助けに来ました」蜀が責められている事は孫権承知です。孔明は正直に蜀（しよく）は「負けるでしょう、次に狙うのは何処でしょう」と語り、呉蜀同盟が結成されレッドクリフ（赤壁の戦い）にて魏（ぎ）の曹操（そうそう）軍を打破し、天下三分の計を作り上げ三国志が設定されました。

ところが、一般にいう『三国志』のストーリーは220年から始まるわけではない。その数十年前の西暦180年代、日本でいう戦国時代の群雄割拠に似た状態から始まる。まだ「後漢」という国がかろうじて存続していたころです。『三国志』の最も主要な人物として知られる曹操（そうそう）、劉備（りゅうび）、諸葛亮（しょかつりょう）らの活躍も、180年代から230年前後に凝縮されている。彼らは三国時代というより、その前の後漢時代に活躍した人たち。だから実際には、三国時代が始まる前の約50年間が最も熱く、一般的には「三国志の時代」として知られています。極端な話、220年以降に三国が



正式に並立してからは戦力が拮抗してしまう。合戦はあっても勢力図が大きく変わるような出来事はごく少なく、あまり盛り上がりなくなってしまうのだ。群雄割拠だからこそ「赤壁の戦い」などの逆転劇が起きたのです。つまり『三国志』という「物語」の本質は、群雄割拠の状態から抜けだした三勢力が並び立つに至る「過程」のほうにある。曹操や劉備も、最初から大勢力だったわけではなく、ごく小さな勢力にすぎなかった。日本でも尾張一国の主だった織田信長が、東の大国・今川義元に「桶狭間の戦い」で大逆転勝利し、天下取りの第一歩を刻んだことはあまりに有名。それと同じように、三国志の曹操や劉備も、不利な状況から、そうした逆転劇を経て皇帝の座へと近づいた史実の物語です。

▷ぐんゆう - かつきよ【群雄割拠】

多くの英雄や実力者たちが各地に勢力を張り、互いに対立して派閥を競い合っている事。

▽「群雄」はたくさんの英雄・実力者。「割拠」はそれぞれが土地を分かち取り、そこを本拠として勢力を張ること。中国や日本の戦国時代などの状況をいう。

魏（ぎ） の曹操（そうそう）
呉（ご） の孫権（そんけん）
蜀（しよく）の劉備（りゅうび）

■次週卓話

6 / 28 「最終例会」

時間：18時 場所：ゆうや 会費：4,000円